

第2回加西市特別職報酬等審議会 議事概要

1 日 時 令和7年12月23日(火) 15時00分～16時30分

2 場 所 加西市役所1階多目的ホール

3 出席委員(50音順、敬称略)

小川仁郎委員(加西市シニアクラブ連合会・会長)

佐藤孝一委員(近畿税理士会社支部・支部幹事)

谷勝公代委員(加西市連合婦人会・会長)

玉田啓子委員(加西市くらしと生活を守る会・理事)

徳保郎委員(加西商工会議所・監事)

長尾幸雄委員(兵庫みらい農業協同組合・常勤監事)

樋口真史委員(加西市労働者福祉協議会・副会長)

真鍋芳嗣委員(加西市区長会・副会長)

渡邊隆信委員(神戸大学大学院人間発達環境学研究科・教授)

欠席委員

棟広大輔委員(加西市連合PTA・会長)

4 事務局

総務部長、総務課長、総務課人事係長

5 会議進行

(1) 開会

(2) 審議

6 審議(主な発言。表記中「⇒」は事務局発言)

(1) 特別職及び議員の報酬について

・期末手当の月数について、人事院勧告により4.6月分から変更はあるのか。

⇒12月議会で、年間4.6月分から4.65月分に変更になっている。

・期末手当の月数については、議会で毎年決められるのか。

⇒人事院勧告に基づき月数を決定し、議会で承認をいただいている。

・今後、報酬等の金額一覧を折れ線グラフや棒グラフなどにして、加西市の状況が一目で他市の平均値と比較できるような資料を作成してはどうか。

⇒次回からグラフ化したものを作成する。また、今回の資料は委員へ送付する。

- ・一般企業はコロナ後、非常に厳しい環境で利益がでないと、給料が上がらずボーナスも出ないので、他市との比較で報酬額を決めるという考え方が一般企業と違う。
- ・事務局の改正案の報酬額について、市長と議長は千円未満を切り上げしているが、副市長と議員は千円未満を切り下げしているので、全て切り上げにしてはどうか。
- ・事務局の改正案の報酬額について、副市長と議員は千円未満を切り上げとし、副市長は770,000円、議員は375,000円で決定する。

(2) その他について

- ・条例では特別職報酬等審議会を少なくとも4年に1度開催することとなっているが、今後の物価上昇や人事院勧告の状況により、もう少し早い段階で開催してはどうか。
⇒昨年と今年の人事院勧告は、今までと比べ給与の改定率が大きかった。今後もそれを上回るような改定があれば、短縮での開催を検討する。
- ・今回議員の金額を引き上げることになった。議員定数について、小野市は削減し、加西市は議会で現状の定数どおりとの結論に至った。実際に議員活動をどの程度されているのか見えてこない。日頃から渋滞が発生している道路などを優先的に整備していく必要があり、先を見て考えていただく優秀な議員が必要である。また、家を建てる関係で、市民の方が議員から説明を受けた内容に納得がいかず、県に確認したところ、議員の説明内容が誤っていた。議員が正しく説明できておらず、危うく家が建てられないところであった。議員に対する不信感を抱くことになるので、議員の質を高める必要がある。
- ・議員については質が重要で、極端ではあるが定数を半分にして給料を倍にするなど、競争力を高めて優秀な議員を集め、決断力があり加西市を引っ張っていく議員が必要ではないか。加西病院も同様に医者が集まらない状況で、医者を集めるために給料を上げ魅力ある病院にしていけないといけない。市内の道路において、北条町の街の中はきれいになっているが、姫路や加古川、三木方面などから加西市に入ってくる道は細く、大型トラックが効率良く運搬できず自転車が走行するのも危険であり、道路の整備が最優先ではないか。
- ・議員定数は15人でいいのではないか。課題として、地域の声を反映させることが大事で、会議の回数や時間を増やしたのではなく質を上げる必要がある。また、困った方が誰に相談していいのかわからないとの声を聞いており、議員が地域の方の声を聞けるように活動する必要がある。
- ・元々議員は加西市が合併した時に、地域の代表として選ばれ、地域の声を議会に上げる役割であった。定数が減ってきたことにより、現状は市の提案を検討することが役割と

なっており、本来の姿と違ってきているのではないか。議員定数についての議論は難しいが、小学校区に1人と人口の多い町から何人か選出するのがいいのではないか。

- 必要な議員活動の内容が不明なため、この場で議員定数の議論はできない。必要な議員活動を示した上で、議員定数についての議論をすべきである。タウンミーティングについて、苦情の場になっていることがあり、地域の声を吸い上げる場になっているのかどうか疑問に思う。タウンミーティングでの地域の声を、議員がすぐにでも現地確認等する必要がある。そのようなことをしていれば、今の定数で足りるのかとも思う。
- タウンミーティングでは、市政を批判する方が時間を独占し議論が前に進まないことがある。その際に議員は一切話さず、何をしているのか疑問に感じる。また、タウンミーティングでの意見が議会に反映されているのかどうか分からない。議員の活動報告にも報告がないので議員の姿勢を疑う。地域の課題として、約30年信号の無い危険な交差点があり、県に確認すると撤去はできても設置は難しいと言われた。県内で年間10基ぐらいしか設置できず、令和9年度まではLED化に特化するため新設の信号機設置は難しい。そのような案件にこそ、地元の議員が積極的に動かないといけないのではないか。定数については現状で充足している。
- 家の近くの議員は活発に活動をされており、相談しやすい環境であった。自分の町に一人は議員がいてほしいので、15人より多くてもいいのではないか。
- 議員定数については他市との比較よりも、地域の特性や面積、産業構造など全体で見ないと人数は出せない。この審議会でも議論するのは難しい。
- 付帯意見に定数の具体は記載せず、議員活動として量よりも質を高め、地域の方の声をひろうことが十分にできていないと感じるため、議員として市民を支える仕組みを整えてほしい。